

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201101
法人名	有限会社 パートナー
事業所名	グループホームパートナー伊川谷
所在地	兵庫県神戸市西区南別府4丁目368-1
自己評価作成日	令和5年12月24日
評価結果市町村 受理日	令和5年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

SNSを通じ、日常の生活風景を都度家族様へ伝えていく点。
レクリエーションを多く取り入れ四季折々の行事を楽しめる点。
食事レクリエーションも多く外出支援もできている点。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人CSウオッチ
所在地	兵庫県明石市朝霧山手町3番3号
訪問調査日	令和5年12月24日

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【優れている点】緊急時の相談や看取り支援など主治医や訪問看護との医療体制が整備され連携が図れている点。外人職員による支援体制の充実。
【工夫点】外出支援では、個々の要望に合わせてお世話食や食レクへの取り組みとしてクリスマス会や希望を取り入れ楽しみとなる外食や活動支援。馴染みの方との交流から個別対応を展開している点、

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↑該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↑該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり梁まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見ると、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見ると、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己評価	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、その中に「地域住民と共に」を掲げ、職員が随時目につくように掲示板に提示し、日々理念を共有し実践している。	事業所理念には「地域住民と共に」を掲げ、管理者及び職員が目に着くよう廊下中央にある掲示板に掲示し、理念を共有し実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内医院や薬局の方など、日常的に交流している。	事業所と同じ敷地内にある医院や薬局の方々と事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敷地内医院、薬局にGHパートナープログラムを設置させていただき、認知症への関心を持っていただくよう努力している。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回奇数月の第3水曜日14:00～15:00に開催している。近隣のGH管理者、あんすこにも参加していただき、パートナーも近隣GHの運営推進会議に参加し、情報交換などを行い交流を深めるとともに自施設のサービス向上に生かしている。	運営推進会議は年6回奇数月に開催し、近隣のグループホーム管理者やあんすこも参加し又パートナーも近隣グループホームの運営推進会議に参加し情報交換しそこでの意見等施設のサービス向上に活かしている。		事故数は「ヒアリング」は表を作成し、利用者の安全に係る事業所である事を意識つける活動が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年4回開催されている西区GH連絡協議会に参加し、各GHの現状報告や最新の情報を交換し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。	市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、年4回開催されている西区GH連絡協議会に参加し、各GHの現状報告や最新の情報を交換し、協力関係を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入社時に個人研修、年4回全体研修を行っている。研修時の内容を研修報告書にて提出し、身体拘束をしないケアについて理解、実践を行い、掲示板にも提示し日々実践している。	代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解の方法として入社時に個人研修、年4回全体研修を行い、その内容を研修報告として提出実践し又掲示板に提示し実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	入社時に個人研修、年4回全体研修を行っている。研修時の内容を研修報告書にて提出し、虐待防止ケアについて理解、実践を行い、掲示板にも提示し日々実践している。	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、入社時に個人研修、年4回全体研修を行い、虐待防止ケアについて理解、実践を行い、掲示板にも提示し日々実践している。		

自己評価	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業については日々カンファレンスなどで話し合いの場を設けている。	管理者や職員は、日常生活自立支援事業に関し日々のカンファレンス等で話し合いの場を設け個々の必要性を話し、それらを活用できるよう支援している。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解、納得を図っている	契約前に家族様、利用者様に施設見学をしていただき、疑問点を納得いくまで説明したうえで、契約書を互いに確認しながら納得し契約をしていただくよう努めている。	契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点解消の一つとして契約前に家族や、利用者へ施設見学をしていただき、疑問点を納得いくまで説明したうえで、契約している。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置し、来訪時などに意見をいただく機会を作っている。 ご要望などはミーティングで検討し、反映させている。	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会として苦情窓口を設置し、来訪時などに意見をいただく機会を作っている。又要望等はミーティングで検討し、反映させている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日(全体ミーティング)を開催し、各フロアの交流も兼ねて話し合いの場を設けている。	管理者は毎月第3火曜日(全体ミーティング)を開催し、各フロアの交流も兼ねて話し合いの場を設け運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社労士と委託契約をし、職員が向上心を持ち、働ける環境の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設研修、外部研修も1人でも多く受講していただけるよう努めている。 実践者研修受講者1名。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が西区GH連絡協議会や他施設の運営会議に参加し、交流の機会をもち、悩みや相談を相談したり、逆にアドバイザーを行ったりと相互にサービスの質の向上に努めている。			

自己第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりを努めている	入居時、本人様を交え面談を行い、コミュニケーションを取り合う中で情報収集に努め、全職員に情報共有をし個別ケアの視点に沿った介護支援に努めている。			
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時に、家族様の意向をお伺いしている。 そのうえで当施設の介護支援の方針もお話しさせていただき、無理のない程度のご協力をお願いしている。 本人様の身体状態に合った生活が送れるようケアの把握に努めている。 希望者には、接骨院やリハビリなどの施術も行っている。			
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている				
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の趣味や嗜好、できることに着目し、日常生活の中で役割がもてるように、居場所が確保できるように支援し、関係を築いている。			
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話やSNSなどで本人様の日々の様子や身体状況など報告させていただくことで、家族様と職員の信頼関係を築いて、本人様との関係が希薄にならないよう努めている。			
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設でイベント事は日々行っているが、コロナ禍のため家族様の参加は現在行っていない。	地域に暮らす家族との関係継続に向け施設を利用して、今までの延長線であるよう支援している。部屋での小人数面会を再開している。連れ合いのお葬式に施設の協力で参加列できました。お正月家族と過ごすため宿泊される方もおられます。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの食事やレクリエーションの参加を促し、共同空間を作るよう努めている。 また、行事ごとの壁画や道具作りなど、利用者同士で関わり、支え合いながら作れる環境づくりに努めている。			

自己 第三者	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、相談や支援を必要とされていない取組みは行えていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、入居時に行う面談の中で、本人様、家族様の希望・意向を読み取るよう努め、困難な場合は本人様との日々の生活の中で時間をかけ読み取り、本人様に沿ったケアプラン作成に努めている。	ご本人がどのように暮らしたいか、何をしたいかなど入居前の生活について情報を丁寧に聞き取ります。また日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めています。言葉や表情などからその方の真意を推し量ります。職員全員が一人ひとりの意向に関心を払っている、		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常に利用者様に寄り添い、1日の過ごし方、身体状態などに気配るよう努め、対応や介助方法について情報共有し、一人ひとりに支援を心掛けています。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のカンファレンスでモニタリングを行い現状を職員間で話し合い、適切な支援であるか新しいニーズはないかなどを探り、家族様などの意向や意見を踏まえ計画を見直し、より現状に合った介護計画の作成に努めています。	設定した期間での見直しはもちろん、食事や排せつの状況が変化した場合には、フロア会議など活用し職員間でアイデアを出し合い、また家族と相談しながら本人本位の視点で検討している。体重維持にむけ運動や活動の実施では「プチサイクル頑張り表」を有効活用しモチベーションアップに繋げている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の情報や、職員とのやり取りの対応、家族様からの連絡、特記事項などの記録を行い、職員間でも漏れの無いよう、情報の記入、共有しながら介護計画の見直しも行っている。			
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている				
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族様のニーズに対応できるように、外部からの支援や、敷地内で行える可能なサービスを考え、柔軟に対応できるように取り組んでいる。			

自己評価		外部評価		
自己	第三者	実践状況	実践状況	
項目	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同じルにある医療機関(泌尿器科・歯科)が利用者様の状態に合わせ対応してくれている。同じ敷地内の薬局も対応してくれている。		
30	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は施設の主治医に2週間に1回の往診をお願いしている。 本人様、家族様の希望を尊重し他の医療機関にも受診し適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望する主治医の診察を受けることができる。専門医など受診する場合は家族が付き添われます。24時間医療体制が整備されており、夜間も診察を受けています。夜間の相談など訪問看護師や主治医と電話連絡ができる体制が整っている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中の情報や気付きは職員間で連携をとり、主治医や訪問看護などに伝えて相談し適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護の情報提供を行い医療機関において安心して治療が受けられるよう支援している。 入院期間中、家族様や病院と連絡をとり、本人様の状態の把握に努め早期退院に向けた情報交換を行い現状に寄り添った支援提供できるように努めている。 契約時に重篤化した場合、終末期の意思表示を書面にて確認。 毎年家族様に再確認なども行い、良い終末期を迎えられるよう支援している。	入院時には情報提供書を医療機関に提供している。緊急時にむけ日頃から個人ファイルの管理を行っている。主治医や訪問看護師と連携しスムーズな入院支援が行われている。退院に向け職員で面会を行っている。家族と情報共有しながら速やかな退院支援に結びつけている。	医療機関に対してなるべく混乱が少ないよう、ご本人の普段の状況や特徴など情報提供書に記載してほしいか。
33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変、事故発生時の備えについては、緊急時持ち出しキットを用意し、全職員7人分の置き場所を把握し、感染症、急変、事故発生について定期的に確認を行っている。	入居時には、重度化に伴う意思確認書を作成し書面での確認をおこなう。重度化や終末期を支えていけるのかなど主治医や訪問看護と相談しながら、安心して納得した最期を迎えられるように。意思確認をしながらチーム全体で取り組んでいる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練(うち1回は夜間を想定)を行っている。 災害時に備え食糧、水を備蓄している。	災害対策として年2回消防訓練(うち1回は夜間を想定)を行い、災害時に備え食料や水を備蓄している。	

自己 第三者	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 外部評価
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプログライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプログライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格尊重し、性格などに合わせて言葉かけや対応を行っている。誇りやプログライバシーを損ねないようには、尊重、本人様がおっしゃる「現実」を否定しない。	誇りやプログライバシーを損ねるような言葉がなくなっているか、日常的に確認し改善に向けて取り組んでいるか、職員への研修にYouTube動画を活用し学ぶ機会を得ている。研修受講後は、研修報告書を作成してもらい自己点検や振り返りを行います。
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が一人ひとりの自己決定、希望を大切にしている。 自己決定が困難な方には情報をできるだけ少なくし、選択がきやすくなるように工夫している。	
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれこれまでの生活歴、本人様にとって大切な経験や出来事を職員はカウンセリングなどで情報共有し、その人らしい暮らしを過ごしていただくか希望に沿って支援するように努める。	
39	○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	外出時、施設での行事がある時にはよそ行きの身支度などお手伝い。 買い物へ行き、ご自身で洋服やアクセサリーなど選んでいただくたり等の支援を行っている。	
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	エプロン、スヌ、手袋着用で、職員と一緒に皿選びや盛り付けなど手伝ってくださる。	食事が楽しみとなるよう利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に取り組みます。お皿選びから声掛けしお手伝いしていただく。クリスマス会ではオードブルやクリスマスケーキを提供しますミーティングで検討しミスタードーナツや外部のお弁当購入など工夫しています。
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に合わせた支援をしている	毎日水分量、食事量は記録している。 食材は外部発注。 常食、常食刻み食、ソト食、ミキサー食などそれぞれに合わせて話し合い提供している。	
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に合わせた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。 歯ブラシが困難な方は360度ハブラシを使い、お茶みがきを行っている。	

自己 者三	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度が進み困難になっているが、排泄表へ記入でパターンを把握し、声かけや誘導を行いトイレで排泄できるような支援を行っている。重度化するなかでも、ポータブルトイレの使用や声かけにも気を配っている。	ひとり一人のサインを職員間で共有しながら排泄チェック表をもとに取り組んでいる。「行きたいときにトイレに行くことができる。」本人の生活リズムに沿った支援を展開している、重度化に伴い職員二人体制で対応するなど本人の状況に合わせ福祉用具活用など検討し支援している。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪看と相談しながら自然排便を目標に水分量、食事量、運動量をこまめにチェックしている。ヨーグルトの飲用や腹部マッサージも行っているが、薬に頼らなければならぬこともあるので常に情報を共有している。			
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイムングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が週2回(火・金)と固定になっている中で、一人ひとりの希望やタイムングに合わせて入浴を楽しんでいたできるよう支援している。重度の方も体調を考慮し清拭などで対応している。	ひとり一人の希望に合わせて週2回利用していただく。入浴を拒む方には安心感が持てるように声掛けなど対応を工夫しながら支援している。無理強いせず職員全員が理解しつる。だ気分が入浴できるよう心掛けていく。重度化に伴いシャワーチェアへの活用など工夫し対応している。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はTV、趣味、お手伝いなどの活動の支援を行い、夜間の安眠を心掛けている。昼寝は個別に習慣の方、その日の体調をみてなど行ってもらえるよう支援している。なるべしベッドで過ごしていただけるようにして個人個人の服薬管理表は職員が閲覧できるようにしており、目的などについても理解している。			
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は薬剤師がしている。服薬時には名前を読み上げ、ダブルチェックを行い、ミスがな毎朝テレビ体操を行い、手の体操、リハビリ、カラオケ、ぬり絵などリフレを楽しみを見つけていただき、洗濯たたみや干し、食事のお手伝いをしている。だくことで役割をもつていただき日々の張り合いになるよう支援している。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望を聞き、近くまで散歩に行ったり、個別に外食を行ってしている。天候、体調をみてコーラ、アイス、甘い物に行ったりなどの支援を行っている。			
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ひとり一人の楽しみや活動に合わせ個別的な支援を行っている。近くの川沿いへお花を見に出かけたり、ダンスに塗り絵や毛糸などお買い物に職員と一緒に出かけます。クリスマス会では利用者によるハンドベル演奏や主治医によるバイオリン演奏など関係性を活かし楽しみとなるよう取り組んでいる。			

自己	第三者	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に添じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行くことが可能な入居者様は、毎月職員と一緒に出かけている。支払いもご自身でできる方は行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をご自身管理で毎日家族様と連絡をとっての方もいらっしゃいます。SNSでテレビ電話や通話をとりつぎサポートしています。			
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の飾りや壁画作りを毎月行っています。入居者様にも手伝って頂いています。カーテンを開けて日光が入るようにしています。	共用の空間では利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで個人席が決まっています。仲良い方と話すこともあり、一人で横になりたい時は居室でくつろいで頂く。			
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必要な物は持参頂いている。購入後必要になった場合ご家族に連絡し購入している。	居室は本人や家族と相談し入居時に必要な物は持参頂き、また入居後に必要になった場合にはご家族に連絡して購入し本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	おぼん拭き、アルコール消毒、洗濯、壁画作成など、できることは役割として毎日声かけさせて頂いている。職員が必ず付添い、安全に気を付けている。			